

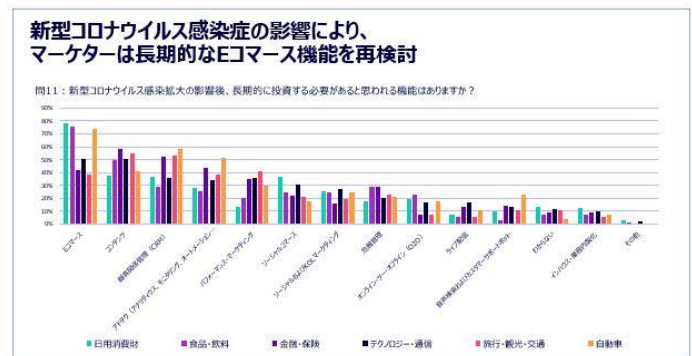
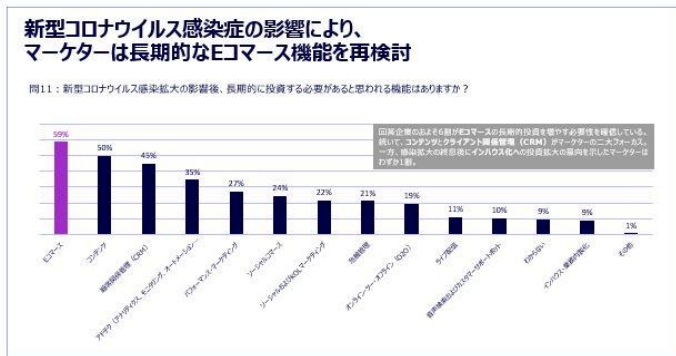
プレスリリース
報道関係者各位

**世界 36 のマーケティング市場から 700 超の企業回答を基にパンデミックの実影響を緊急調査！
実に 78% がマーケティング投資を縮小！約半数が 2020 年度予算 15% 以上カットと
報告する一方、世界各国で E コマースへの長期的な予算増加に期待感
- アメリカ市場のコロナ打撃はグローバル平均 45% を大きく上回り 56% を記録 -**

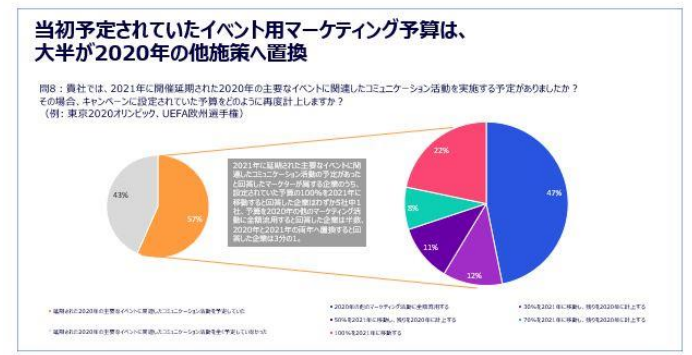
電通イージス・ネットワーク^{*1}はこの度、世界的な感染拡大が続くコロナウイルスのグローバルマーケティング市場における影響と実態を調査した緊急レポート『The Reality of Recovery: A Post COVID-19 World - アフターコロナの世界、リカバリーと実態 -』を発表いたしました。本調査^{*2}では電通イージス・ネットワークを通じて世界 36 の市場でグローバルクライアントを対象にアンケートを実施し、パンデミックがそれぞれの市場でマーケティング予算や施策にどのような影響を与えたかを調査、700 を超える企業回答から現状の分析が行われました。結果、回答者の 78% がマーケティング投資への縮小を報告し、中でも 2020 年度予算の 15% 以上がカットされたとの回答は約半数近くに及びました。また、日本でも政府による外出自粛要請に伴いステイホームが強く呼びかけられるなど、世界中でロックダウンや強固な防疫が行われたことで、E コマースにおけるコロナウイルスパンデミックの影響は本調査においても顕著でした。6 割のマーケターが今後長期的な E コマース需要拡大に伴うマーケティング予算増加に期待を寄せており、特に日用消費財(FMCG)、飲食料品(F&B)、自動車(Automotive)の 3 つの業界では E コマースへの長期投資意欲が高い結果となりました。地域別に比較すると、EMEA(欧州・中東・アフリカ地域)では 38% が E コマースを最も切迫した課題として挙げている一方、30%にとどまった APAC(アジア太平洋地域)では僅差ながら E コマース分野における準備・対策が整っていることが分かる結果となりました。

*1 電通イージス・ネットワークは日本においてアイブロスペクト・ジャパン株式会社、カラ・ジャパン株式会社、dentsu X Japan 株式会社、電通アイソバー株式会社、ピジウム・ジャパン株式会社で構成されています。

*2 調査期間 2020年4月15日～2020年4月30日/調査機関 電通イージス・ネットワーク/内容 COVID-19 Global Client Survey/回答者数 701人



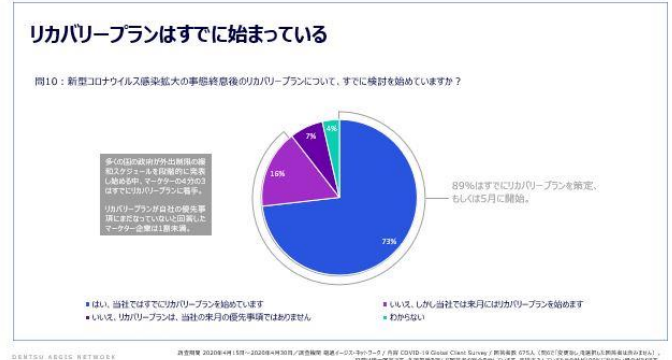
【延期が発表されたオリンピック・パラリンピックや UEFA 欧州選手権等 2020 年度開催予定であった主要イベント用マーケティング予算は大半が他施策へ置換】
ホストタウンを擁する日本でも大きなインパクトを与えた大型スポーツイベントの延期。約 6 割が延期となったイベント関連のコミュニケーションプランを策定していたと回答し、中でも約 8 割は 2020 年度のイベント用マーケティング予算について今年度中に何らかの置換を報告、2 割強は予定していた予算全てを 2021 年に繰り越すと回答しています。一方で、約半数は本年度中に全額他のマーケティング施策への置換を示唆しており、パンデミックを受け強化・開拓が必要となったチャネルへの置換え予算としての利用や、新しい生活様式にフィットするマーケティング手法への投資に使われることが予期されます。



【アフターコロナ、with コロナ時代の新たなマーケティングの在り方へ即座に対応したグローバルマーケターが 9 割！

新規チャネルの試行やリカバリープラン策定など経済を再始動するためのマーケティング施策内容改善が実施済

パンデミックを受け、実際にどのようなアクションを実施したのかを尋ねたところ、回答者の過半数がクリエイティブやコンテンツを調整し、オフライン施策を削減・オンライン間口を拡げるなど、この機に合わせた柔軟且つ迅速な改善を施していることが分かりました。全支出を停止するという最も保守的なアプローチを選択した回答者も 3 割弱見受けられたものの、ほぼ同じ割合で新規マーケティングチャネルの試行やブランディングメッセージを増やすとしたポジティブな回答が得られる興味深い結果となりました。一方で、大多数が売上げの減少を最も切迫した課題として挙げており、約 9 割が既にリカバリープランを策定もしくは 5 月に開始と回答しています。ただし Americas(南北アメリカ地域)に絞ると既にリカバリープランを策定もしくは開始と回答した割合は 7 割弱に止まり、他地域より若干の遅れがあることが判明し、経済打撃の大きさが懸念される結果となりました。



参照

Moving into a new normal COVID-19 Global Client Survey, Dentsu Aegis Network(2020)

より詳細な「The Reality of Recovery: A Post COVID-19 World」本編(英語版)は下記特設サイトにてダウンロードが可能です。日本語版は近日中にダウンロードが可能となります。

<https://www.iprospect.com/ja/jp/news-and-views/insights/covid19survey/>

電通イージス・ネットワークについて

電通のグローバル・ネットワーク・ブランドである電通イージス・ネットワークは、Carat、電通、dentsu X、iProspect、isobar、McGarry Bowen、Merkle、MKTG、Posterscope、Vizeum という 10 のグローバル・ネットワーク・ブランドで構成され、スペシャリスト / マルチマーケット・ブランドに支えられています。「Innovating the Way Brands Are Built」のコンセプトのもと、メディア、デジタル、クリエイティブ・コミュニケーション・サービスに関する最高クラスの専門知識と能力を通じて、革新的で比類のない製品・サービスを幅広く提供しています。電通イージス・ネットワークは、ロンドンに本社を置き、世界 145 か国に 47,000 人を超えるプロフェッショナルを擁しています。(www.dentsuaegisnetwork.com)

■iProspect Japan (アイプロスペクト・ジャパン) の概要

会社名 : iProspect Japan (アイプロスペクト・ジャパン株式会社)
 代表者 : CEO 金井 耕一
 所在地 : 東京都中央区銀座 6-18-2 野村不動産銀座ビル 12F
 設立 : 2003 年 12 月
 URL : <https://www.iprospect.com/en/jp/>

■Carat Japan (カラ・ジャパン) の概要

会社名 : カラ・ジャパン株式会社
 代表者 : CEO 金井 耕一
 所在地 : 東京都中央区銀座 6-18-2 野村不動産銀座ビル 12F
 設立 : 2003 年 12 月
 URL : <https://carat-japan.jp/>

■dentsu X Japan の概要

会社名 : dentsu X Japan 株式会社
 代表者 : CEO 逆瀬川 聡
 所在地 : 東京都中央区銀座 6-18-2 野村不動産銀座ビル 12F
 設立 : 2018 年 3 月
 URL : <https://www.dxglobal.com/>

■Dentsu Isobar (電通アイソバー) の概要

会社名 : 電通アイソバー株式会社
代表者 : CEO 得丸 英俊
所在地 : 東京都中央区築地 1-13-1 築地松竹ビル
設立 : 2001年4月
URL : <https://www.dentsuisobar.com/>

■Vizeum Japan (ビジウム・ジャパン) の概要

会社名 : ビジウム・ジャパン株式会社
代表者 : CEO 金井 耕一
所在地 : 東京都中央区銀座 6-18-2 野村不動産銀座ビル 12F
設立 : 2006年7月
URL : <https://www.vizeum.com/>